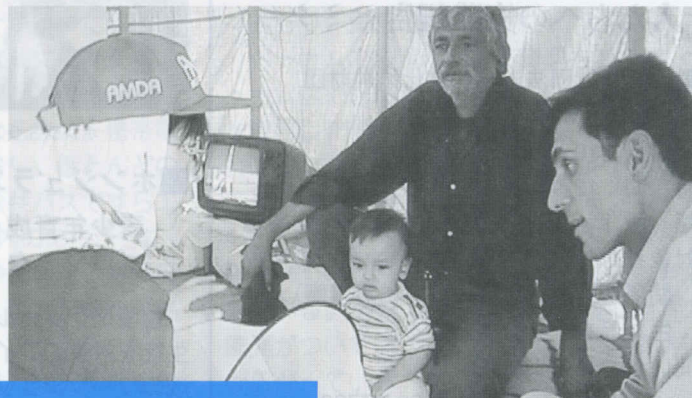
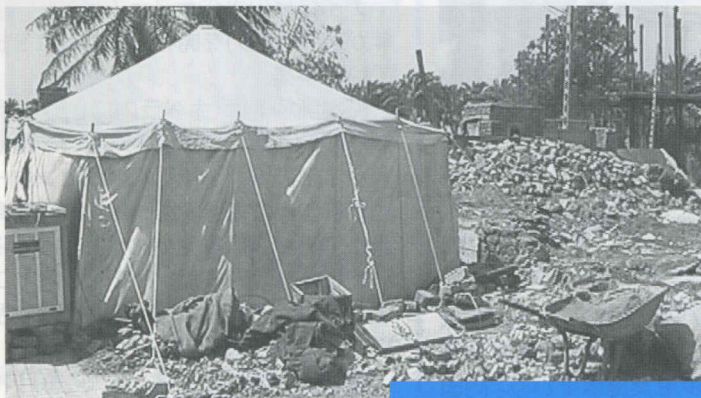


AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2004年7月 No.20 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市橋津310-1
 特定非営利活動法人AMDA(アムダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail: member@amda.or.jp
 編集：AMDA Journal 編集室
 ホームページ：http://www.amda.or.jp



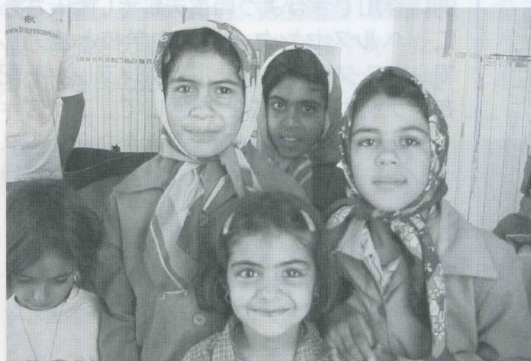
イラン・バム 大地震から5ヶ月…

AMDA 緊急救援事業部 佐伯 美苗

喉が渇くというより、肺が焼けるような気がする。40度を越える熱風が巻き上げる砂塵と炎暑、乾ききった砂漠の中に、倒壊した街並みが現れる。昨年12月26日クリスマスの翌日、大地震に襲われたイラン・バムの街は、5ヶ月を経たこの日もその概観を変えることなく、壮絶なる災害の爪あとをさらしていた。

「赤ん坊がすぐに熱を出して。ドクターは大通りの医療テントにときどき来てるんだけど、2週間もすると帰ってしまう。結局いつ居るのが判らない。」ナジアさんの家族も、庭に張ったテントで暮らしている。ナツメ椰子の木陰でまだ涼しいものの、彼女のすぐ後ろでは倒壊した自宅の瓦礫が手付かずだった。やっと、1日1回給水が来るようになったのと、電気が無料なのが幸いだ。「仕方ないから(180km離れた)ケルマンの病院へ連れて行かないといけないんだけど。急病になったら、どうしたらいいのかねえ。」電話がないのはもちろん、穴だらけの細い路地裏では、ナジアさんが救急車を呼ぶ術はない。

モルキさんの家族は、ようやくプレハブのような家建てを終えた。6畳くらいの、トタン屋根の小屋だ。「暑いから昼間は中に居られないです。でもやっと家族を安心して寝かせられるようになった。残った家具も入れることができたし。」すぐ横にはひび割れ、くだけた白いタイルの壁がわずかに残っていて、往時の家を偲ばせる。目地はまだ新しく、照返しが眩しい。「とても気に入っていた家でした。去年完成したところだったんですが。でも家族がみんな無事だったのが、アラーの思召しです。」26歳のモルキさんは、今も運転手として日雇い仕事をし、父母の家族6人を養っている。やっと、学校に通えるようになったことを、妹さんがうれしそうに話してくれた。



真冬の1月には見かけなかった、無数の蠅や蚊、虫たちが飛び交う。街中を網の目のように流れていたカナートの水路は震災で崩壊し、給水が止まる一方で、生活排水はそこかしこで溢れ、気温の上昇とともに衛生環境は急速に悪化している。かつて被災後に設置された給水タンクは、その水質が飲用には危険だと言われて久しいが、そうした指摘にも関わらず対策は未だ進まない。1月でもすでに懸念された、飛び交う虫からの感染症—マラリヤ、チフス、コレラ…無数の危険は、テント一張の暮らしでは防ぎきれず、一方で対処は後手に回っている。そして肝心の医療は、復興計画すらまだ確定しておらず、仮設の診療テントやコンテナが配置されているのみである。

AMDAは特に、低地に位置するバラバト地区で、乳幼児がテント暮らしをしている家庭の暮らしを調査しつつ、蚊帳と衣類を配布して、子どもたちの感染を防ぐように努めている。現在も地元の医師たち、ボランティアとして一緒に救援にあたったグループと連絡を取り、支援を継続している。

日本の報道では取り上げられなくなり、NGOがほとんど忘れ去った今も、復興に苦しみながら、明日への希望を見出すとする人たちに、AMDAは手を差し伸べていたい。

大地震と復興、災害対策、隣国イラクで続く紛争、国際的圧力と開かれた協力関係。今、無数の重要課題が、この国に突きつけられている。その瓦礫の中で、これからさらに厳しさを増す炎暑の中、人々は小さな希望を大切に、復興の行く末を見つめている。

これまでの多大なるご支援に感謝いたしますとともに、今後とも変わらぬご協力をお願いいたします。

ハイチ共和国洪水災害に対する支援活動

2004年5月23日未明から24日にかけて発生した集中豪雨により、ハイチ共和国南東部地域を中心に大規模な洪水が発生しました。この水害により、ハイチ国内全体で2,300世帯3万人以上が避難生活を続けています。1ヶ月以上が過ぎた現在も、家屋の倒壊で住む場所を奪われた人々、道路の寸断で援助の行き届いていない地域、また家畜や作物を流され収入を断たれてしまった農家など、未だ多くの人々が困難な生活を余儀なくされています。

AMDAでは、NPO法人e & g研究所 (URL: http://www.eandg.net) と共同で支援の呼びかけを行なっています。

共に考える
AMDAセミナー

HIV/エイズに関心を寄せる
人々への実践報告セミナー

助成：財団法人福武文化振興財団

主催：AMDA

開催日：10月11日（月・祝日）

時間：13時から

場所：岡山国際交流センター国際会議場

対象者：小学・中学・高校教諭などの学校

関係者、医療従事者（特に看護職）、学

生などを主な対象とする。

問い合わせ先：AMDA 広報室

TEL 086-284-7730

皆さまふるってご参加下さい。

開催の趣旨：

HIV/エイズは世界的な問題であるにもかかわらず、最も正確な知識と情報が必要な小学校高学年から高校生に対する教育において、十分に行われてきたとは言えないのではないのでしょうか。

海外の状況や、海外でAMDAが実施し、成果をあげている様々なエイズ予防プロジェクトの様子、さらにはメディアでなかなか取り上げられない日本の実状を紹介することで、私たちの問題としてとらえるきっかけにさせていただければと思います。

セミナープログラム：

第一部 海外の状況

- ・概況説明
- ・AMDAのエイズ予防プロジェクト紹介
- ・中南米を中心に、ケニア、ネパール、ミャンマー

・JICAのエイズ対策

第二部 日本/岡山の状況

- ・岡山市保健所
- ・岡山大学自主サークルA2

(AIDS activists)

第三部 ワークショップ

- ・参加者と共にワークショップ



ホンジュラス：小中学生対象のエイズ教育

■ホンジュラス

青少年育成・エイズ予防教育
プロジェクト

首都テグシガルパ市において、小中学校生徒を対象にエイズ予防を含めた青少年育成のワークショップを実施している。同国保健省の青少年育成プログラムにAMDA独自の内容を加えて、ゲームやクイズ、ビデオなどの視覚教材を使用し、生徒が積極的に参加できるように工夫している。さらに、ヘルスセンターや小中学校と協力して、ポスターコンクール、パンフレット配布、サッカー大会などを通じて、エイズキャンペーンを実施している。また、ヘルスセンターにおける青少年診療、性感染症検査も支援している。

■ペルー

(性と生殖に関する健康)

青少年のリプロダクティブヘルス
教育プロジェクト

首都リマ市において、公立の小中高の生徒、教員および親を対象に、青少年のリプロダクティブヘルス向上のためのワークショップを実施している。大学生をファシリテーターとして養成し、彼らが、AMDAスタッフの監督のもと、学校を訪問し、青少年の教育にあたる。指導者を育成することで、効果的かつ持続的な活動が可能となっている。ワークショップの内容は、性や性感染症、性的虐待などの危険から身を守る方法、子どもの身体的・社会的成長を促すことなどのテーマを取り扱っている。これまでの蓄積された活動経験を体系化し、ワークショップの手法を確立している。

■ケニア

青少年育成プログラム

ナイロビのキベラスラムにおいて、青少年が個々の能力を開花できる機会を提供している事業。

職業訓練では、キベラ内に住む10代後半から20代前半の若者を対象とした縫製訓練と木工訓練が、AMDA訓練センターで行われる。また毎週1回、保健環境教育を実施しており、訓練生始め住民は環境衛生・HIVを含む性感染症・HIV感染者やエイズ患者に対する在宅介護・若者の薬物乱用に関する基礎知識を学んでいる。

環境衛生教育の一環として、毎月1回、糞尿やごみが山積みとなっている同スラム内で、保健環境教育に参加している住民を中心としてクリーンアップキャンペーンを実施している。



ケニア：VTCセンター

保健医療改善プログラム

キベラスラムにおいて蔓延しているHIV/エイズ対策として、VCT（自発的カウンセリングとHIV検査）センターを2003年1月に開設し、HIV感染の有無を住民が無料で知ることができるようになった。現在、月に60～70名の住民がVCTを訪れ、2003年度末時点で訪問者数は1,007名となっている。感染率は平均して12%であるが、そのうち男性の感染率が6%、女性が22%となっており、その中でも特に10代後半から20代にかけての女性の感染率が高く、早急な対策が必要とされる。

またHIV/エイズに関する知識は人々の間に広まっているとはいわれているが、キベラの若者の多くは「HIV/エイズ=死」であると捉えている場合が多く、VCTセンターの敷居は高いようである。そのため、保健環境教育を強化するなど若者に対する教育活動などにも今後力を入れる必要がある。また予防啓蒙活動のみならず、現在実施している精神的・身体的なケア・サポート中心の対策も同時に実施・強化している。



AMDAではポブラ社の『21世紀の平和を考えるシリーズ5 エイズ とめよう世界に広がる病』の執筆に協力しました。監修の大貫美佐子さんは、まえがきで、「なぜ感染するのか？感染したらどうすればよいのか？正しい知識として持っている人は、実に少ないのではないのでしょうか。HIVの感染は、教育と深くかかわっています。いくら治療のための病院をふやしても、いくら薬をふやしても、正しい知識をもって行動し、感染しないようにしなくては、状況は改善されていきません。」と語っておられます。今回のAMDAセミナーを通してHIV/エイズ問題について、私達に何が出来るか、一緒に考えてみませんか。

エクト

ベトナムで新しいプロジェクトを開始

ベトナム事業 川崎 美保

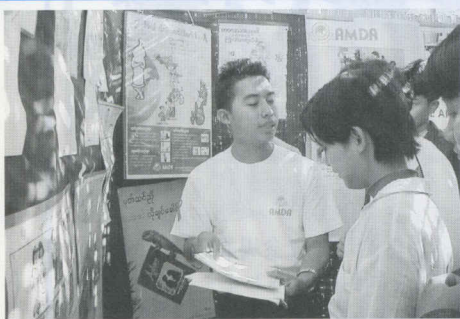
「ベトナムには国際援助など必要ないのではないか」ベトナムの首都であるハノイ市に到着してすぐにそう感じた。人々の服装や食事、建物や公共交通機関等の表面的な観察にしか過ぎないが、生活水準はほとんど日本と変わらない。携帯電話が一般的に使われており、ほとんどの車はエアコン完備で、公共バスですらエアコンが効いている。市内のあちこちに、おしゃれなレストランやカフェ、雑貨屋やお土産屋が立ち並び、エステや化粧品屋、そして様々なショップがある。

しかし、事業地を視察し、地元関係者の話を聞き、人々の生活を自分の目で見て、都市と地方の経済格差を目のあたりにし、支援の必要性を感じた。事業地では、電気、水道、交通、通信、衛生施設、医療施設、学校等の基盤整備が未発達であった。また、住民のほとんどは少数民族で、農業

に従事しており、ベトナム語を理解しない人々、さらには、文字の読み書きができない人々もおり、貧困層が多かった。

ベトナムの経済に関する資料を読むと、ベトナムは1986年に「ドイモイ（刷新）政策」を宣言し、市場経済の導入と対外開放政策を推進した結果、1990年代にはGDPが約2倍に増加する成長を果たしている。特に、1992年から1997年にかけては、年率8～9%の経済成長を遂げ、貧困層の人口も半減している。しかし、急速な経済成長に地方の開発がついていかず、都市と地方の経済格差が広がっている。

このような現状を踏まえ、AMDAは、外務省の日本NGO支援無償資金を受け、北西部山岳地に位置するソンラー省イエンチョウ郡の2つのコミュニティ及びホアビン省ダーバック郡の1つのコミュニティを対象に、2004年4月から事業を開始した。



ミャンマー：スタッフ育成トレーニング

■ミャンマー

エイズ予防コミュニティ促進プロジェクト

深刻化するHIV/エイズ問題はUNDP、UNAIDSの協力を得て、中部乾燥地域で予防教育を実施。AMDA診療所ではカウンセリングや診療を行うとともに、予防教育を行うためのスタッフへのトレーニングを行っている。スタッフにはHIV/エイズに対する意識改革・予防教育に留まらずVCT（自発的カウンセリングとHIVテスト）をプロジェクトに導入できるように指導していく。

■ネパール

HIVを含む性感染症予防啓発プロジェクト

ジャバ郡ダマック市を拠点とし、近隣郡のモラン、スンサリ、サブタリ、シラハ郡の幹線道路沿いに「ドロップインセンター（DIC）」を開設し、HIVを含む性感染症の感染予防のための啓発活動を展開。主な対象者は、性産業従事者とその顧客、それらの配偶者、麻薬注射行為者、長距離トラック運転手。インドとの国境に接し、人々の移動が激しいピラトナガル市やカカールピッタ市も、重点活動地域として事業を展開している。

DICでのHIVを含む性感染症関連の情報提供や意識啓発活動のみならず、中学生・高校生を対象にした弁論大会や、ドラマ上演、映画上映等を通して、地域住民のHIVを含む性感染症の感染予防に関する意識啓発を促す。



■イエンチョウ郡公衆衛生改善支援プロジェクト

ベトナム北部山岳地帯に位置するソンラー省イエンチョウ郡では、安全な水の供給不足、適切な衛生施設の未普及等による感染症蔓延が問題となっている。同地に住む約60%の住民が、地面に穴を掘っただけ、もしくは直接河川へし尿を流す衛生施設を利用している。また、約50%の住民が、河川を生活用水・飲料水として利用している。本事業では以下の4つのプログラムを通じ、現地住民の参加と自立を念頭に置いた公衆衛生向上支援を実施する。

- 1)基礎調査を経て選択された2地域における水供給システムの建設、
- 2)衛生施設利用の重要性を周知・促進するためのモデルトイレ建設、
- 3)地域住民を対象とした公衆衛生トレーニング、
- 4)水源確保の重要性を周知するためのモデル植林。



■タンザンコミュニティ保健医療サービス向上支援プロジェクト

(2004年から現在)

ベトナム北部山岳地帯に位置するホアビン省ダーバック郡タンザンコミュニティでは、山岳地帯特有の地理的悪条件の為、住民は基礎保健医療サービスを受けることが困難な状況に置かれている。住民の一次医療施設までのアクセス時間は、平均徒歩1～4時間、もしくは手（足）漕ぎボートで1～3時間+徒歩1時間である。本事業では日本国外務省の支援により、以下の4つのプログラムを通じ、現地住民の参加と自立を念頭に置いた保健衛生サービスの向上支援を実施する。

- 1)コミュニティ内でも特に遠隔地に位置する2村へのヘルスポスト（一次医療施設管轄下にあたる、日本でいう地方診療所の役割を果たす）建設、
- 2)ヘルスポストへの医療機材・医薬品の供与、
- 3)医療スタッフと保健ボランティアを対象とした保健医療トレーニング、
- 4)地方において依然利用されている安価な伝統薬草の普及を目的としたモデル伝統薬草菜園。

株式会社 道徳神
The Travelers Guardian Inc.

〒108-0014 東京都港区芝5-13-18 MTCビル9階
TEL: 03-3455-6111 FAX: 03-3455-2442
〒530-0001 大阪府北区梅田2-5-25 ハービス PLAZA3 階
TEL: 06-6343-7725 FAX: 06-6343-6328
ホームページ: <http://www.dososhin.com>
メールアドレス: info@dososhin.com

公開講座◆一般受講者募集

岡山発国際貢献 国際的な広域防災と官民協力

災害対策セミナー ー災害対策のあり方と可能性についてー

天災、人災によらず災害はすでに地域の問題だけではなく、グローバルな相互防災体制の構築が求められている現在です。しかしながらわたし達の身の回りにおいて緊急時対応システムは完備しているのでしょうか？

官庁・市民・各種専門家や組織等を緊急時に連携する複合的な防災協力体制はどうあるべきか。個々の地域や立場からの災害論を越えた、総合的な視点からの災害対策のあり方と可能性について検証します。

岡山県立大学大学院の公開講座として実施され、AMDA緊急救援医療事業シニアアドバイザーである津曲兼司医師も『NGOと国際災害援助活動』と題した講義を行います。皆さまのご参加をお待ちしております。



日時：2004年9月11日(土) 13:00～17:00

場所：岡山国際交流センター 国際会議場

受講者：一般社会人 学生

定員：80名(定員になり次第締切)

受講料：無料

※お問い合わせ・申し込み先：

特定非営利活動法人 AMDA 広報室

TEL086-284-7730 URL <http://www.amda.or.jp>

イベントボランティア募集

AMDAでは、今秋AMDAが開催または参加するイベントの手伝いをして下さる方を募集しています。主な作業は各イベント会場にて会場設置やイベント実施補助です。同封のイベント一覧表をご覧ください。AMDA広報室までご連絡下さい。よろしくお願い致します。(TEL 086-284-7730)



AMDAプロジェクトご支援のお願い

AMDAの活動には災害や紛争の被災者となった人々を支援する緊急救援活動と、開発途上国で貧困に苦しむ人々を支援する地域医療・地域開発支援活動があります。

特に緊急救援活動は、予期できない災害の被災者救援のため、一刻も早く現地に駆け付けなければなりません。AMDAの緊急救援事業部では、常に情報収集や災害対策についての研究、医療活動に用いる機材など物資の維持、そして緊急救援活動に参加を希望される社会人のための登録制度「AMDA ERネットワーク日本」の運営を行っています。

しかしながら資金面の確保は難しく、緊急救援開始の大きな難関となっております。

AMDAへのご寄附には一般寄附と特定寄附(応援して下さいプロジェクトを指定していただく寄附)がありますが、緊急救援活動の場合にも、今後起きうる災害等を想定した、「緊急救援」への特定寄附をお願い致します。

郵便振込 口座番号 01250-2-40709

口座名 AMDA

*書き損じハガキ、未使用ハガキ・切手を集めています。書き損じハガキは切手と交換し、通信費として使用しています。



AMDA 高校生会の活動

岡山県内の高校生を中心としたAMDA高校生会は、AMDAの『スリランカ医療和平プロジェクト』への支援活動を行っています。具体的な活動としては、様々な方面から国際協力活動を考える勉強会「国際理解交流会」や、活動の中心となるスリランカのプロジェクトに関する勉強会、さらには高校生会の活動紹介を目的とした報告会開催、ラジオ出演、他団体イベントへの参加等があります。また、支援活動としてのフリーマーケットや募金活動も行っています。活動期間は1年単位とし、会員は高校1、2年生です。会費は無料。



今年8月7日(土)には、

『NHK ハートフォーラム 高校生の底力 一次世代人道援助NGOを担うー』と題した、AMDA高校生を中心とした平和と文化の交流会を行います。昨年夏、AMDA高校生会のメンバーはスリランカを訪れ、AMDAが実施する巡回診療を視察したり、現地のデビバリカ高校を訪問しました。今回はその高校からも生徒2名が参加し、20年間の紛争に停戦合意したばかりのスリランカの現状をとおして、共に平和を考えていきます。詳しくはAMDA高校生会ホームページをご覧ください。 <http://www.amda.or.jp/highschool/>

NGO 相談員の活動

平成16年度もNGO相談員業務を外務省から委嘱されました。AMDA職員の鈴木俊介、富岡洋子がNGO相談員として、国際協力等に関して様々な方面からのご相談に対応していきます。

TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959 E-mail: member@amda.or.jp

NGO 相談員とは？

国際協力NGOの設立、NGO活動への参加、組織の運営・管理、開発途上国に関する情報、NGO相互の情報ニーズに対し、経験豊かな日本のNGO団体が相談員となり、適切なアドバイスを行います。また、国際協力に対する理解促進のため、NGO相談員が地方自治体や教育機関などと連

携して行う出張相談サービスも実施しています。

外務省のホームページから、あるいはODAとNGO(ODAホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/jikou/oda_ngo/index.html からご覧下さい。



AMDA 会員募集

AMDAの会員となってAMDAの活動を支援して下さい方を募集しています。

一般会員・学生会員・医師会員・法人会員となって下さった皆さまには、AMDAの活動への様々なご提案をいただくと共に、AMDAより活動報告誌『AMDAジャーナル』を毎月送付します。また、賛助会員の皆さまには半期毎に『AMDAダイジェスト』を送付します。

詳細はAMDAホームページをご覧ください。 <http://www.amda.or.jp/> また入会手続にはAMDAの郵便払込用紙をご利用下さい。